

活動を振り返って

社会福祉学部保健福祉学科 2年 植村 真

活動先：NPO 法人 ゆめじろう

クラス：岡 多枝子 先生

1. はじめに

まず、わたしが 2 年期のゼミでサービスラーニングに選んだ理由は、実際に施設などに赴き大学の講義では学べないことを体験したいと考えたからである。それまで、わたしは施設などで活動したことがなかった。そのため、実際に現場で活動できるサービスラーニングを選んだ。今回は実際に行った活動内容と、サービスラーニング自体の概要を照らし合わせて述べていきたい。

2. 活動先概要

NPO 法人ゆめじろうは「身近で専門性を備えたサービス」を基に福祉相談事業や障害者高齢者のホームヘルプ、デイサービス事業などを行っている。また、利用者さんが作ったコロッケやパンなどの販売も行われている。その他に年間に様々な企画が行われており、その企画の中の一つの夏祭りに私たちは企画の段階から参加させていただいた。

3. 活動内容

①夏祭り準備

まず、ゆめじろうで活動を行うにあたってどのような活動を行い、何を学びたいのかを KJ 法を用いて話し合った。結果、意見として主に二つの意見が挙げられた。一つはゆめじろうで行われている地域参加型の夏祭りの運営を携わることで、企画力や運営力を身に着けることである。二つ目は高齢者や障害者の方と関わることで、卓上では学べない経験を得たいという考えが挙げられた。二つの意見を基に施設側と話し合った結果、活動の主は夏祭りの企画作りを行い、企画や準備段階の中で利用者の方と関わる方針に決まった。

夏祭りの準備ではキャッチコピー作りや出店などの内容決め、さらに夏祭りを使う POP 作りを行った。しかし、出店やイベントの企画作りでは学生側で十分に話し合いがなされず、まとまった意見を施設側に提案することが出来なかった。結果、出店など内容のほとんどが“例年通り”の案となった。また、出店の買出しや企画作りも学生内で連絡を取り合うことができず、施設側には大変迷惑をかけてしまった。

②施設内企画

夏祭りを間近に控えた時期に、台風 12 号が愛知県を直撃すると予報が流れた。半年近くミーティングや話し合いを行なった夏祭りが台風で流れないでほしいと、施設関係者の方々をはじめ、私たち学生側も願っていた。しかし、夏祭り前日から当日にかけて台風が愛知を通過することがわかり、施設側から夏祭り中止の連絡が伝えられた。息消失していた私たちだったが、活動日数がまだ残っていることがわかり、もう一日施設で何か活動を行いたいと考えた。話し合った結果、夏祭りで売る予定であったフランクフルトを利用者

の方々と加工して食事会を行い、最後に学生演奏を行うことが決まり施設側にも承諾を受けた。

企画当日のフランクフルトの磯部焼き作りでは、普段の作業とは違うため戸惑う利用者の方もいたが、施設職員の方の手もサポートもあって定刻どおり調理を行うことが出来た。その後、通常の施設運営の体験を挟んで学生演奏を行い、利用者の方々と一緒に歌を歌った。一日の終わりの帰りの会では、歌をもう一度歌いたいとの声が利用者の方から挙がり、再度歌を歌った後、一日の運営が終了した。



4. 活動を終えて

今回の活動を通して、私は多くの気付きに出会うことが出来た。夏祭りの準備期間では、少人数で活動する場合での連帯の難しさを感じ、同時にそれを怠った場合の周りへの影響も学んだ。施設内企画では再スタートという形でそれまでの反省を生かし、学生間の話し合いの機会を増やし情報共有を行った。また、夏祭りの準備では企画運営に重点が偏ってしまい、参加者や利用者の方との関わり方への意識が薄かった。その為、施設企画では利用者の方と出来る限り関わられることを前提として企画を立てた。結果、施設職員の方からも「利用者さんが一体となったのは久しぶりだ」「感動した」と激励の言葉をいただくことが出来た。よって、当初の活動目的であった企画力や運営力を身に着けることができ、同時に施設活動で施設の雰囲気や業務、利用者さんとの関わり方など卓上では学べないことも学ぶことが出来た。

では、今回の私の活動はサービスラーニングの活動定義には沿っていたのだろうか。サービスラーニングの核となる基本的な概念は「サービスの提供者と受け手の変化を考え、目標を統合する。それは、自己の振り返りと自己発見や価値観、技能、知識の獲得などの課題につながるように組み立てられた機会とサービスの課題を結び合わせることによって実現される」とされている。自己実現と成長につながることも条件であるが、核となる要素は、提供者と受け手の両者にとって有利で対等な変容を生むことである。始めに施設担当の方が挙げた「学生の新鮮な意見を知る」という目標には、私たちは到達しなかったように思える。また、単発なボランティアではないというのがサービスラーニングの特性の一つであるため、一年間のゼミ活動ではこの特性に沿っていないと私は考える。

上記のことから、私はサービスラーニングの本来の概要に忠実には沿っていなかったと考える。しかし、活動の中で内省を行い、企画を練り直して実行した点では、今回のサービスラーニングはただの“体験学習”ではなかったといえる。